

ホヤケニモノシ奉ルモ勿體ナク、スバロニ涙コボル、バカリ也、御廟ハ萬治元年、松平出羽守、此嶋ヲ預リ玉ヘル時新ニ建立也、ソレマデハ御廟モ石バカリナリシトゾ、此嶋寛永十四年ヨリ、松平出羽守アヅカリ玉フ、元祿元年ヨリ御代官、又享保四年ヨリ、出羽守アヅカリ玉フ、亦今ハ修覆モナクテアレハテタリ、

〔金ヶ原地藏院過去帳〕夫地藏院ハ、金原寺の別院にして、開山聖覺法師より、數百年の星霜を經たり、然に當山堅空泰峯上人、深く金原寺の諸堂滅亡せしことを歎き、再建の志願ありといへども、時至らず、猶亦兩帝の法華堂も燒失して其跡ばかりなれば、毎月十一日と十七日に、御陵前に誦經念佛せり、ある夜の夢に、或人異相を感見せしとかや、則法華堂は土御門院、後嵯峨院、兩帝の御骨を此堂に納め奉る、即金原寺の北に當り、一町餘の道法、土<sup>大</sup>石<sup>恐</sup>の塚あり、これ法華堂のあとなり、時に泰峯上人、慶長十九年七月廿七日入寂せり、其のち太空說全上人、前代の如く毎月御陵前に回向せられける、說全上人、寛永十二年八月廿九日遷化せり、金原寺は其名計なれば、當山より兼つとめたり、今西谷の佛石は金原寺のあととなり、當山も度々陣火にあへども、再建ありて存在せりと云、爾寛永十三年二月、地藏院主專空玄智記、

〔嵯峨覽勝志〕蓮華峯寺陵、後宇多法皇、正中元年六月廿五日、大覺寺殿にて崩す、此山に葬奉る、昔時陵園營構美を盡せりと、此邊麓の圃までも、廻廊の礎石古瓦、土に埋れて猶存せり、陵門廻垣は皆田圃にすたれ、御塔の砌までも、樵夫の往來となれるぞ最かなしき、近き比まで八角の小堂もて御塔を廕ひしと見え侍りて、俗みな八角堂と呼べり、近世わづかに松の屋を構て、數歩の内をかこへり、

〔後水尾院崩御記〕延寶八年八月十九日乙亥、今朝寅上剋、太上法皇崩御也、<sup>寶曆八</sup>申剋般舟院陽空長老來駕、口狀書一通持參、前例多候間、此度仙洞御火葬ニ願候、深草安樂行院ニ治御骨、骨堂も後